

各 位

日本農産工業株式会社

平成 23 年 1～3 月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、平成 23 年 1～3 月期の畜産配合飼料価格につきまして、以下の飼料原料情勢等に基づき、平成 22 年 10～12 月期に比較して、全国全畜種総平均トン当たり約 3,650 円値上げすることを決定致しました。尚、改定額は、地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし 3 月限は \$570/ブッシェル前後での取引となっています。

とうもろこし相場は、米国産とうもろこしの生産量が伸び悩み、秋口までの予測を大きく下回ったこと、米国の追加金融緩和により余剰資金が穀物相場に流入したことにより、上昇傾向が続いています。今後もエタノール用など需要が好調であり、来年に向けて需給が逼迫化する可能性があり、相場は堅調に推移すると予想されます。

2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆期近相場は、米国産大豆の生産量が予測を下回り、中国の需要が好調であることから、\$12/ブッシェル台後半で堅調に推移しています。現時点では順調に作付が進んでいますが、南米産地の少雨による減産懸念から、相場は上昇しやすい傾向にあります。

シカゴ定期大豆粕期近相場は、10～12 月期間より \$40 前後高い \$340～350/ショートトンで推移しており、1～3 月期の国内大豆粕価格は 10～12 月期より約 4,000 円/トン上昇する見込みです。

3. 海上運賃

米国ガルフ/日本間パナマックス級本船の運賃は、中国の輸入の伸びが鈍化したことにより需給の逼迫懸念が弱まり、\$60 台での取引となっています。

4. 外国為替

欧州各国の信用問題、米国の減税措置延長決定を受けて米長期金利が上昇したことなどによりドル安傾向は止まり、一時 80 円/ドルの円高となりましたが、直近では 84 円/ドル前後での取引となっています。